

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	実践学習	授 業 方 法	講義
年 度	2020年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:御園 行洋 専任教員		

■授業科目情報

授 業 内 容	学校での行事予定などの告知。学生への個人面談。ビジネス能力検定3級合格へ向けてテキスト・問題集を使い試験日に向けて学習していく。またこの時間帯に現役のプロの声優に来校頂き、業界の話などを伺っていく。
到 達 目 標	ビジネス能力検定3級合格。円滑な学校生活の情報共有の時間。また学生一人一人の進路相談や細かいケアなどを実践していく。
教 科 書	ビジネス能力検定ジョブパス公式テキスト3級
年 間 授 業 計 画	1 オリエンテーション 2 学校生活・業界ルールなどについて 3 個人面談1 4 個人面談2 5 ジョブパス3級対策授業 第1編第1章 6 ジョブパス3級対策授業 第1編第2章 7 ジョブパス3級対策授業 第1編第3章 8 ジョブパス3級対策授業 第1編第4章 9 ジョブパス3級対策授業 第1編第5章 10 ジョブパス3級対策授業 第1編第6章 11 ジョブパス3級 第1編第1～6章練習問題 12 ジョブパス3級 第1編第1～6章練習問題 13 校内オーディション対策 14 個人進路面談 15 ジョブパス3級対策授業 第2編第1章 16 ジョブパス3級対策授業 第2編第2章 17 ジョブパス3級対策授業 第2編第3章 18 ジョブパス3級対策授業 第2編第4章 19 ジョブパス3級対策授業 第2編第5章 20 ジョブパス3級対策授業 第2編第6章 21 ジョブパス3級 第2編第1～6章練習問題 22 ジョブパス3級 第2編第1～6章練習問題 23 校内オーディション対策準備 24 ジョブパス3級 総合問題 25 ジョブパス3級 模擬試験実施 26 ジョブパス3級 模擬試験実施 27 個人進路面談 28 漢字読み書き、個人面談 29 基礎学力に関するまとめテスト 30 プロ声優を招いての現場マナー・体験談
成 績 評 価 方 法	出席率30% テストへの向き合い方や小テスト、期末ペーパーテストでの点数70%を加味して評価する。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

以上

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	業界研究	授 業 方 法	講義
年 度	2020年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:御園 行洋 専任教員		

■授業科目情報

授 業 内 容	業界のプロ声優、または活躍中の卒業生を招き、声優業界の事や心構えなどを学ぶ。また学生が持つ業界や現場、演技などに関する質疑応答なども実施する。またプロの作品や卒業制作なども鑑賞し、認識を深める。文化祭の準備やコラボレーションの収録などにも充てていく。プロフィール用紙の作成などにも時間を当てる。
到 達 目 標	現役のプロのお話などで業界の認識を高める。授業に取り組む意識を高める場にもする。また学校内部の収録や文化祭の準備などにも活用する。2年次進路に必要なプロフィール用紙の大まかな作成を完了させる。
教 科 書	なし
年 間 授 業 計 画	1 声優業界で仕事をするうえでのマナー、心構え 2 声優業界で仕事をするうえでのマナー、心構え 3 プロ声優を招いて現場で求められる事・心構えを伺う 4 プロ声優を招いて現場で求められる事・心構えを伺う 5 企業コラボ ゲーム収録 6 卒業生による学校生活の過ごし方などトークを聞く 7 卒業生による学校生活の過ごし方などトークを聞く 8 納涼ライブへ向けての準備など 9 納涼ライブへ向けての準備など 10 ボイスサンプルの作り方 11 ボイスサンプルの作り方 12 ボイスサンプルの作り方 13 コラボレーション作品進行 14 コラボレーション作品進行 15 コラボレーション作品進行 16 コラボレーション作品進行 17 自己紹介・自己PRづくり 18 自己紹介・自己PRづくり 19 自己紹介・自己PRづくり 20 卒業制作映像鑑賞 21 卒業制作映像鑑賞 22 DATフェスタへの準備 23 DATフェスタへの準備 24 DATフェスタへの準備 25 宣材写真への取り組み 26 宣材写真への取り組み 27 プロフィール用紙作成 28 プロフィール用紙作成 29 内容確認 30 内容確認
成 績 評 価 方 法	自己PR内容、プロフィール用紙提出内容、授業への取り組み、ペーパーテスト内容を70% 出席率=30% 以上を加味して成績評価とする ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

以上

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	MC&ラジオ	授 業 方 法	実習
年 度	2020年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:藤井 ペイジ 芸能事務所サンミュージック所属。自身の名前を冠としたラジオ番組を持ち、パーソナリティを担当。		

■授業科目情報

授 業 内 容	イベントにおいてMCの役割を知り、観客を意識した分かりやすい話術を学ぶとともに、スムーズに進行することのノウハウを指導します。ラジオにおいては、自分がパーソナリティである場合とゲストとしている場合では全く違うということを知り、リスナーは耳だけで聴いているということを認識させ、多角的に指導いたします。
到 達 目 標	人前で話すための立ち振る舞いを知り、アマチュアではなくプロとしてのトークを身につけさせて、卒業後には即戦力となるような、もしくはそこまで至らずとも自ら意識して高いトーク術を持つタレントを目指していけるような意識を持ってもらえるようにしたいと思います。
教 科 書	なし
年 間 授 業 計 画	1 自己紹介 2 人前で話すことに慣れる訓練 1 3 人前で話すことに慣れる訓練 2 4 人前で話すことに慣れる訓練 3 5 人前で話すことに慣れる訓練 4 6 人前で話すことに慣れる訓練 5 7 見られていること(観客)を意識しながら話す 1 8 見られていること(観客)を意識しながら話す 2 9 見られていること(観客)を意識しながら話す 3 10 自分の考え・主張を短く、印象づけて話す方法 1 11 自分の考え・主張を短く、印象づけて話す方法 2 12 自分の考え・主張を短く、印象づけて話す方法 3 13 相手の話を聴き、自分の意見の伝える 1 14 相手の話を聴き、自分の意見の伝える 2 15 相手の話を聴き、自分の意見の伝える 3 16 イベントでの司会のやり方 基礎 17 イベントでも司会のやり方 1 18 イベントでの司会のやり方 2 19 イベントでの司会のやり方 3 20 疑似イベント練習 1 21 疑似イベント練習 2 22 疑似イベント練習 3 23 ラジオでの話し方(ゲスト)1 24 ラジオでの話し方(ゲスト)2 25 ラジオでの話し方(パーソナリティ)1 26 ラジオでの話し方(パーソナリティ)2 27 プロとしてのラジオでのトーク 1 28 プロとしてのラジオでのトーク 2 29 プロとしてのラジオでのトーク 3 30 1年間のまとめ。進級・卒業後、そして将来の目標・自身の未来像を言葉にする。
成 績 評 価 方 法	①出席率=30% ②テスト+毎週の授業内容=70% ・上記2つの項目それぞれを合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

以上

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	パントマイム	授 業 方 法	実習
年 度	2020年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:小島屋 万助 デンマーク公演ツアー、バンコクマイムフェスティバル、仁川(韓国)劇場公演など、プロのパントマイミストとして世界各国のイベントに出演。一般社団法人日本パントマイム協会理事		

■授業科目情報

授 業 内 容	* パントマイムの基礎練習(ドゥクルーシステム) * テクニック練習(かべ、綱引き、風船など) * エチュード(即興練習) * 発表会(生徒のオリジナル作品)
到 達 目 標	パントマイムの技術を習得する。エチュード練習により表現力、発想力を高める。発表会の作品作りを通してパントマイムという身体表現方法を獲得する。
教 科 書	なし
年 間 授 業 計 画	- 基礎1 基本メソッドであるドゥクルーシステムを中心に身体に対する意識を高める。 - 基礎2 基本メソッドであるドゥクルーシステムを中心に身体に対する意識を高める。 - 基礎3 基本メソッドであるドゥクルーシステムを中心に身体に対する意識を高める。 - テクニック1 代表的なテクニック(壁、綱引き、風船、マイムウォークetc)の習熟。 - テクニック2 代表的なテクニック(壁、綱引き、風船、マイムウォークetc)の習熟。 - テクニック3 代表的なテクニック(壁、綱引き、風船、マイムウォークetc)の習熟。 - テクニック4 代表的なテクニック(壁、綱引き、風船、マイムウォークetc)の習熟。 - テクニック5 代表的なテクニック(壁、綱引き、風船、マイムウォークetc)の習熟。 - エチュード1 イメージをいかに身体で表現するかをねらった即興練習。 - エチュード2 イメージをいかに身体で表現するかをねらった即興練習。 - エチュード3 イメージをいかに身体で表現するかをねらった即興練習。 - エチュード4 イメージをいかに身体で表現するかをねらった即興練習。 - エチュード5 イメージをいかに身体で表現するかをねらった即興練習。 - 発表会 学内ステージにおいてオリジナルソロ作品を発表。 - 基礎4 基本メソッドであるドゥクルーシステムを中心に身体に対する意識を高める。 - 基礎5 基本メソッドであるドゥクルーシステムを中心に身体に対する意識を高める。 - 基礎6 基本メソッドであるドゥクルーシステムを中心に身体に対する意識を高める。 - 基礎7 基本メソッドであるドゥクルーシステムを中心に身体に対する意識を高める。 - 基礎8 基本メソッドであるドゥクルーシステムを中心に身体に対する意識を高める。 - テクニック6 より難易度の高いテクニック(空間、時間、人物の入れ替えなど) - テクニック7 より難易度の高いテクニック(空間、時間、人物の入れ替えなど) - テクニック8 より難易度の高いテクニック(空間、時間、人物の入れ替えなど) - テクニック9 より難易度の高いテクニック(空間、時間、人物の入れ替えなど) - テクニック10 より難易度の高いテクニック(空間、時間、人物の入れ替えなど) - テクニック11 より難易度の高いテクニック(空間、時間、人物の入れ替えなど) - 応用1 習ったテクニックを使って小作品を作る。 - 応用2 習ったテクニックを使って小作品を作る。 - 応用3 習ったテクニックを使って小作品を作る。 - 発表会 学内ステージにおいてオリジナルアンサンブル作品を発表。 30 1年間の授業のまとめ。
成 績 評 価 方 法	出席率=30% 期末テスト+テクニック小テスト+期末発表会内容=70% * 上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

以上

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	滑舌(アフレコ)	授 業 方 法	実習
年 度	2020年度	年間授業時間数	120時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 30コマ 後期 30コマ
単 位 数	8.0	週 間 授 業 数	前期 2回 後期 2回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:御園 行洋 専任教員		

■授業科目情報

授 業 内 容	教材を使い、滑舌を中心に呼吸・発声・アクセント・イントネーションなど声優・俳優の基礎を学ぶ。スタジオでの授業なのでマイクを使って声を録音する。プレイバックして自分の声を聞き返し、上達具合や課題を確認していく。
到 達 目 標	プロとして必要な基礎力(滑舌・呼吸・発声・正しいアクセントなど)を身につける。書いてある文字を正しく読んだり台本の内容を深く読み解くことを指導し身に着けさせる。スタジオでのマナーなどをしっかり認知させ、プロの現場に出ても恥ずかしくない学生に育てる。
年 間 授 業 計 画	1 イントロダクション 2 声優史 日本語表音文字の性質 外郎売概要 3 オリジナル早口言葉を作ろう 呼吸訓練 4 呼吸・発声訓練 5 呼吸・発声訓練 6 傾聴訓練 7 外郎売発表 8 外郎売発表 9 テキスト「アエイウエオア王物語」 10 テキスト「アエイウエオア王物語」 11 テキスト「アエイウエオア王物語」 12 テキスト「おあや」 13 テキスト「おあや」 14 テキスト「おあや」 15 朗読 16 朗読 17 朗読 18 ナレーション 19 ナレーション 20 ナレーション 21 ドキュメンタリー番組実習 22 ドキュメンタリー番組実習 23 ドキュメンタリー番組実習 24 ドキュメンタリー番組実習 25 ノベルス学科コラボレーション実習 26 ノベルス学科コラボレーション実習 27 ノベルス学科コラボレーション実習 28 ノベルス学科コラボレーション実習 29 ボイスサンプル実習 30 ボイスサンプル実習
成 績 評 価 方 法	①出席率=30% ②試験+授業への取り組み=70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

以上

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	滑舌(アフレコ)A	授 業 方 法	実習
年 度	2020年	年 間 授 業 時 間 数	120時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 30コマ 後期 30コマ
単 位 数	8.0	週 間 授 業 数	前期 2回 後期 2回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:勝沼 紀義 過去ケッケコーポレーションに所属し、現在フリー。アニメーションなど数多くの作品に出演し、即興劇インプロなどでも活躍の現役声優。		

■授業科目情報

授 業 内 容	教材を使い、滑舌を中心に呼吸・発声・アクセント・イントネーションなど声優・俳優の基礎を学ぶ。スタジオでの授業なのでマイクを使って声を録音する。プレイバックして自分の声を聞き返し、上達具合や課題を確認していく。
到 達 目 標	プロとして必要な基礎力(滑舌・呼吸・発声・正しいアクセントなど)を身につける。書いてある文字を正しく読んだり台本の内容を深く読み解くことを指導し身に付けさせる。スタジオでのマナーなどをしっかり認知させ、プロの現場に出ても恥ずかしくない学生に育てる。
教 科 書	なし
年 間 授 業 計 画	1 イントロダクション 2 声優史 日本語表音文字の性質 外郎売概要 3 オリジナル早口言葉を作ろう 呼吸訓練 4 呼吸・発声訓練 5 呼吸・発声訓練 6 傾聴訓練 7 外郎売発表 8 外郎売発表 9 テキスト「アエイウエオア王物語」 10 テキスト「アエイウエオア王物語」 11 テキスト「アエイウエオア王物語」 12 テキスト「おあや」 13 テキスト「おあや」 14 テキスト「おあや」 15 朗読 16 朗読 17 朗読 18 ナレーション 19 ナレーション 20 ナレーション 21 ドキュメンタリー番組実習 22 ドキュメンタリー番組実習 23 ドキュメンタリー番組実習 24 ドキュメンタリー番組実習 25 ノベルス学科コラボレーション実習 26 ノベルス学科コラボレーション実習 27 ノベルス学科コラボレーション実習 28 ノベルス学科コラボレーション実習 29 ボイスサンプル実習 30 ボイスサンプル実習 30
成 績 評 価 方 法	出席30%・試験(前期)及び課題提出物(後期)70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

以上

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	演技演習	授 業 方 法	実習
年 度	2020年度	年間授業時間数	120時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 30コマ 後期 30コマ
単 位 数	8.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:城内 美登理 声優プロダクション オスカープロモーションに所属。声優、ナレーターを勤め、後に専門学校にて演技指導を担当。		

■授業科目情報

授 業 内 容	演劇初心者が多いため発声練習など演技基礎を毎回指導。講師自身も一緒に身体を動かし見本をみせることで理解を促し、不明や分からない点があればその都度対応します。発表会・学園祭など人前で表現を実践する機会を多く設定し経験を積ませます。常に全ての生徒に声をかけ一人一人の特性をみて交流を持ち、授業を楽しめるように工夫します。
到 達 目 標	声優として必要な演技力の基本を実習や舞台発表を通し習得し、プロ現場で即戦力になるように指導していきたいです。現場の声など「今」業界で求められているものを伝えていき目標や興味を持たせます。他学科とのコラボレーションなど生徒が楽しみにしている授業も企画し学校や授業の対しての楽しさを持続させていく事も重要だと思っています。
教 科 書	なし
年 間 授 業 計 画	1 発声基礎練習・柔軟体操・シアターゲーム 2 発声基礎練習・シアターゲーム・演劇台本読み方講座 3 発声基礎練習・シアターゲーム・演劇台本読み方講座(アクセント) 4 発声練習・シアターゲーム・本読み1(前期発表会用脚本) 5 発声練習・シアターゲーム・本読み2 6 本読み3・キャスティング ※以降、発声練習・シアターゲームは毎回実施 7 本読み4・舞台演劇用語講座 8 立ち稽古1 9 立ち稽古2・ヘアメイク講座 10 立ち稽古3・メイク合わせ 11 立ち稽古4・衣装合わせ 12 通し稽古1・音響合わせ 13 通し稽古2・照明合わせ 14 ゲネプロ 15 前期発表会 16 発表会反省会・本読み(文化祭用脚本)・立ち稽古1 17 立ち稽古2・衣装合わせ 18 立ち稽古3・殺陣ダンス稽古 19 通し稽古・音響照明合わせ 20 ゲネプロ 21 文化祭(舞台発表) 22 文化祭反省会・本読み1(後期発表会用脚本) 23 本読み2・キャスティング 24 立ち稽古1 25 立ち稽古2・衣装合わせ 26 通し稽古1・殺陣ダンス稽古 27 通し稽古2・歌唱稽古 28 通し稽古3・音響照明合わせ 29 ゲネプロ 30 後期発表会
成 績 評 価 方 法	①出席率=30点 ②発表会演技力(表現力・発想力・発声・滑舌など)+テスト=70点 ・上記項目を合計し、100点満点での成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

以上

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	ダンス&ステージング	授 業 方 法	実習
年 度	2020年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:高須 美里 ダンスチーム「ピンズファクトリー」に所属。定期公演や様々なイベント、パーティに出演。 他に東京ディズニーランドのダンサーとしてニューイヤーイベントに10年出演。		

■授業科目情報

授 業 内 容	ストレッチ・筋カトレニング・ダンス
到 達 目 標	体を使って表現をする事・魅せ方を学んでいく。協調性・作りあげていく楽しさ、大変さを経験していく。
教 科 書	なし
年 間 授 業 計 画	1 自己紹介、オリエンテーション 2 アップの仕方 ストレッチ 3 アップの仕方 ストレッチ 4 筋カトレニング 5 筋カトレニング 6 リズムコンビネーション 7 リズムコンビネーション 8 リズムコンビネーション 9 基礎ステップ 10 基礎ステップ 11 コンビネーション 12 コンビネーション 13 試験へ向けての振付 14 試験へ向けての振付 15 前期テスト 16 基礎テクニク 17 基礎テクニク 18 基礎テクニク 19 基礎テクニク 20 コンビネーション1 21 コンビネーション2 22 コンビネーション3 23 コンビネーション4 24 後期試験へ向けての振付 25 後期試験へ向けての振付 26 後期試験へ向けての振付 27 試験へ向けての振付確認 28 試験へ向けての振付確認 29 最終まとめ 30 後期テスト・総評
成 績 評 価 方 法	①出席率=30% ②試験発表内容+小発表内容+表現力や授業への取り組み=70% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

以上

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	殺陣	授 業 方 法	実習
年 度	2020年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当: 梶 武志 ワタナベエンタテインメント、テアトルアカデミー、劇団ひまわり等でのアクション指導、演技指導のほか、商業演劇でのアクション指導も行う。自身もTV番組へ多数出演。		

■授業科目情報

授 業 内 容	現代殺陣・時代殺陣 声優としての心構えや肉体作り、演技に必要なスキルを実践していく。
到 達 目 標	全員が怪我無く、殺陣が出来るようにする。殺陣としての基本の型など身に着ける。
教 科 書	・無し
年 間 授 業 計 画	1 オリエンテーション 2 現代殺陣の基本その1 殴る、蹴る 3 現代殺陣の基本その2 移動 4 現代殺陣の基本その3 受ける 5 現代殺陣の基本の習得1 6 現代殺陣の基本の習得2 7 現代殺陣の基本習得3 8 息使いについて 9 体使いについて 10 ヒーローアクションの為の実践1 なし割、千鳥 11 ヒーローアクションの為の実践2 シャッター、ボディアップ 12 ヒーローアクションの為の実践3 芯とは 13 ヒーローアクション実践 多対1 14 ヒーローアクション実践 多対1 15 ヒーローアクション実践テスト 16 時代殺陣 オリエンテーション 17 基本の型の習得 18 基本の型の習得 19 基本の型の習得 20 移動稽古その1 基本 21 なし割・千鳥 22 シャッター・山形 23 移動稽古その2 対人 24 立ち廻り 2対1 25 立ち廻り 3対1 26 殺陣の演技 27 殺陣の演技 28 殺陣の演技 29 基本の型 テスト 30 殺陣実践
成 績 評 価 方 法	出席率=50% 演技力・技術力・平常20% 期末テスト=30% ・上記2つの項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出します ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

以上

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	エチュード	授 業 方 法	実習
年 度	2020年度	年間授業時間数	120時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 30コマ 後期 30コマ
単 位 数	8.0	週 間 授 業 数	前期 2回 後期 2回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:杉山 佳寿子 青ニプロダクション所属。アルプスの少女ハイジのハイジ役の他、多数の有名アニメ作品に出演。現役の声優・俳優として活躍しつつ、大学や専門学校での声優育成に努める。		

■授業科目情報

授 業 内 容	・五感を開発。集中力・持久力をつける。 ・緊張をとる方法が使えるようにする(リラクゼーション) ・楽しい基礎演技
到 達 目 標	・個性の発見 ・演技力を向上させるとともに、演じる楽しさをみつける
教 科 書	なし
年 間 授 業 計 画	1 自己紹介・ガイダンス 2 リラクゼーション実践 3 カップ 4 レモンとアメ 5 サンシャイン 6 鏡(上半身) 7 鏡(全身) 8 オーバーオールセンセーション(シャワー) 9 オーバーオールセンセーション(風) 10 オーバーオールセンセーション(お風呂) 11 置き換えの技術(好きな人) 12 置き換えの技術(嫌いな人) 13 痛み 14 外郎売選手権 15 前期テスト 16 ボール(ゴム) 17 ボール(紙風船) 18 ボール(カラーボール) 19 デイリーアクティビティ(はきそうじ) 20 デイリーアクティビティ(拭き掃除) 21 演技演習実習シーン①②(鎌田敏夫・恋愛会話など) 22 演技演習実習シーン③④(鎌田敏夫・恋愛会話など) 23 演技演習実習シーン⑤⑥(鎌田敏夫・恋愛会話など) 24 絵本を読む① 25 絵本を読む② 26 ラジオドラマ(各務月子「不老川の風に乗って」) 27 ラジオドラマ(キャラクターの声の研究) 28 ラジオドラマ(いろんな役にチャレンジ) 29 ラジオドラマ(仕上げ) 30 後期テスト
成 績 評 価 方 法	①出席率30%、②表現力+テスト内容70% 項目をそれぞれ合計し、100点満点の成績評価を算出 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

以上

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	朗読	授 業 方 法	実習
年 度	2020年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:御園行洋 専任教員 担当:小林 梢 本校声優学科卒業後、声優プロダクション アクセント所属の現役声優。TVアニメ、ドラマ、CMナレーションを担当。		

■授業科目情報

授 業 内 容	朗読表現に関する基本的な発声・発音・表現技術の習得。 自分の長所・短所を見つめ、長所をいかに伸ばしていくか、アピールできるのかを考える。
到 達 目 標	朗読表現の基本となる、発声・呼吸の習得。 文章を間違えず、なるべくストレス無く声に出して読める技術の習得。 面接対応として、各個人の一歩の笑顔・良い発声での返答ができる様にしてい 事を到達目標とする。
教 科 書	なし
年 間 授 業 計 画	1 自己紹介・授業の趣旨説明 腹式呼吸・発声の基礎説明と実践 2 現状の朗読表現確認 腹式呼吸・発声・活舌の基礎説明・実践 3 腹式呼吸・発声・活舌の基礎説明・実践① 4 腹式呼吸・発声・活舌の基礎説明・実践② 5 腹式呼吸・発声・活舌の基礎説明・実践③ 6 腹式呼吸・発声・活舌の基礎説明・実践④ 7 朗読原稿を使い、基本の読み方、日本語の確認① 8 朗読原稿を使い、基本の読み方、日本語の確認② 9 朗読原稿を使い、基本の読み方、日本語の確認③ 10 朗読・ナレーション原稿を使い、感性を生かした朗読実践① 11 朗読・ナレーション原稿を使い、感性を生かした朗読実践② 12 朗読・ナレーション原稿を使い、感性を生かした朗読実践③ 13 前期テスト教材練習① 14 前期テスト教材練習② 15 前期テスト実施(教材朗読 前期総合) 16 各個人の自己紹介・朗読表現における腹式呼吸・発声の説明 17 現状の朗読表現確認 腹式呼吸・発声・活舌の基礎説明・実践 18 腹式呼吸の基礎説明・実践 19 " 20 原稿を読み現在の自分の表現を確認する 21 呼吸基礎訓練と、表現中に基礎を取り入れる訓練 22 "(以降、生徒の到達度合いにより原稿を変更しながら授業を進める) 23 " 24 " 25 " 26 " 27 テスト原稿の選定と訓練 28 " 29 試験日 一律、同一原稿を朗読し、評価 30 後期授業の振り返りと、各自の今後の課題について説明
成 績 評 価 方 法	出席率40%・試験結果20%・個人の能力の成長度合い40%をそれぞれ評価し、 その合計点 100点満点の成績評価を算出します。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

以上

授業概要(シラバス)

専門学校デジタルアーツ東京

■科目基本情報

学 科 名	声優学科	年 次	1年
授 業 科 目 名	ヴォイストレーニング1	授 業 方 法	実習
年 度	2020年度	年間授業時間数	60時間
開 講 学 期	前期・後期	授 業 コ マ 数	前期 15コマ 後期 15コマ
単 位 数	4.0	週 間 授 業 数	前期 1回 後期 1回
担 当 教 員 ・ 略 歴	担当:甲斐 健児 (株)レイズインにて作詞家、ヴォイストレーナーとして勤務。後に大学や専門学校にてヴォイストレーナーとして指導を担当。		

■授業科目情報

授 業 内 容	腹式、基本発声、発音(滑舌)など、基本的な表現方法を、各テーマごとに課題曲を提示し、その歌唱を通して、実践的に学んでいく。
到 達 目 標	発声および発音の基礎を、学術的にも技術的にも理解し、応用することで、自分自身の声を楽器としてとらえ、各々の個性を伸ばしながら自由に表現することを目標とする。
教 科 書	なし
年 間 授 業 計 画	1「基本理念」 発声の基礎・声の仕組み 2「身体の姿勢」 中心軸の気づき、丹田 3「呼吸法」 腹式呼吸の修得、効能を確認 4 リップロール、タンロールで息の流れを確認 5 間口音“あ”で、自分の声帯の震えを自覚する 6 現在の音域をチェックし、声帯の強度を計る 7 日本語の母音と発音の口の形を確認 8 表情筋の使い方、重要性に気づく 9 母音“お”で、朗々と流れていく息を確認し、ロングトーンを意識する 10 母音“え”で、声のベクトルをコントロールする 11 母音“う”で、動詞の表現を考えてみる 12 舌根を上げずに、のどを開くことを意識する 13 母音“い”で、英詞への対応を学ぶ 14「高音域」 自分の音域を広げるトレーニング 15 楽器としての声の個性に気づく 16 リズムトレーニング ～4分～ 17 リズムトレーニング ～8分～ 18 リズムトレーニング ～16分～ 19 リズムトレーニング ～グルーヴとはなにか～ 20 8分の6拍子 ～ワルツ～ 21 子音、とくに英語の詞に注意してみる 22 のどで切る音に注意する 23 バラードで、詞やメロディーを自覚しながら確実に歌うことを意識する 24 母音、子音のバランス配分を意識する 25 息の吐きすぎによる発音の違いを確認する 26 普遍性を持つ楽曲を学び応用する 27 スキルアップのために① ビブラートの使い方と効能 28 スキルアップのために② ダイナミックスの付け方と効能 29 スキルアップのために③ 歌に表情をつけてみる 30 個性の再確認と歌唱発表
成 績 評 価 方 法	出席点30%+テスト内容および授業内での表現力・授業への取り組み等70%以上を加味して100点満点で評価。 下記に定められた成績評価に準じる。 ・各科目の認定基準は、成績評価及び出席率を持って認定する。 ①成績評価は次の4段階とし、C以上を合格とする。(A:80点以上 B:65点以上 C:50点以上 D:49点以下) ②出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目の認定をしない。
備 考	

以上